

令和4年度 法人の執行状況報告(案)

【法人本部】

コロナ禍による減収に加えて、物価高等による影響も受けた年度となった。畜産部門の休止という歴史的な転換期を迎え、収入アップはもとより、支出をどう抑えていくかが課題となる。年度当初に福祉医療機構からコロナ対策運転資金として1億円の借入れを行ったにもかかわらず、厳しい資金繰りが続いている。

法人一丸となって、この危機を乗り越えていきたい。

【岡之原エリアについて】

利用者3名(男性3名)の方が他界。入所利用者の新規受け入れを検討。就労系事業の見直しを実施。就労継続支援 A 型→B 型への事業変更。令和5年度内に畜産部門の休止。

【草牟田エリアについて】

法人内で唯一の収支が黒字となっている。スタッフの努力のたまものである。地域生活支援拠点として、鹿児島市障害者基幹相談支援センターと連携しつつ、鹿児島市内の17法人(令和5年7月に18法人)との面的整備につながる連携協定を結び展開中。

7月より鹿児島県障害者芸術文化活動支援センターを受託。バリアフリー演劇の公演をはじめとして、より多くの方々が文化芸術に触れる機会を増やすための活動を推進中。

【上福元エリアについて】

保育士不足の中ではあるが、インクルーシブ保育を実施しつつ、子どもたちの成長とともに喜び合いつつ、可能な限り様々な体験(ゆうかり学園の資源活用)をしてもらっている。不適切保育、喫食中の事故等、全国的に話題になっているが、最善の努力を続けていきたい。

【事業企画課】

鹿児島市施設連絡業議会の事務局として、鹿児島市こども家庭支援センターより育児支援家庭訪問事業を受託。

【監事監査】2023年5月17日(水)、18日(木)

【理事会】2022年5月26日(木)、9月28日(水)、2023年3月29日(水)

【評議員会】2022年6月21日(火)

【第三者委員会・運営協議会】2022年8月3日(水)

令和4年度 ゆうかり学園 事業報告(案)

1. 事業報告

1) 施設入所支援

定員40名 期首34名(男18:女16)／期末35名(男20:女15)

期中、女性利用者1名が介護保険施設へ移動されたため、定員割れにより待機登録者のうち、男性利用者2名の受け入れを行った。現在1名の方について利用検討中。前年度より減少が続いており、利用者の入院等の増加も稼働率に影響していると考えられる。

3年間稼働率推移 94⇒87⇒83(%)

また、全ての事業に総じてであるが、前年度からの新型コロナウイルス感染拡大も稼働率低下に影響している。

2) 生活介護

定員75名 期首62名／期末62名

入所利用者以外の新規利用者を獲得できていない。また、新型コロナウイルス感染により、途中3箇月ほどの通所利用休止があり、施設入所支援同様、前年度より稼働率が低下している。

3年間稼働率推移 80⇒76⇒69(%)

また、その感染はスタッフへも拡大し、支援体制の確保に影響が出るほどであった。

3) 就労継続B型

定員45⇒35名 期首36名／期末35名

生活介護同様、入所利用者以外の新規利用者を獲得できていない。また、新型コロナウイルス感染により、途中3箇月ほどの通所利用休止があり、施設入所支援同様、前年度より稼働率が低下している。

3年間稼働率推移 76⇒71⇒71(%)

※令和4年度は期中定員が変更となっているため、実質稼働率は低下

4) 就労継続A⇒B型(ぽおくしよっぴ遊花里)

定員10名 期首3名／期末5名

期中、就労継続支援A型からB型へ事業変更を行う。これまで利用いただいた方全て、事業変更をして継続利用していただけることになった。新規利用者の獲得が必要であるが、場所柄受け入れが困難。

日中活動報告

1) 園芸(野菜)

安心安全でおいしい野菜を提供することを目標に掲げて、減農薬での野菜作りから可能な限り無農薬での野菜作りを念頭に置きながら活動に取り組んでいる。しかし、利用者の高齢化により支援度があがり、参加できる作業が限られてきている。そのため活動内容の見直しと、工賃支払いのため収入向上が課題となっている。

2) 園芸(花卉・果樹)

園内の花壇の美化は勿論、ゴルフ場、みなよし療護園などの花壇の管理を行っている。果樹で

は、ミカン、ブルーベリーの出荷先として天文館果実堂との提携を引き続き実施。また、ゆうかり保育園の園児たちの芋ほり、ミカン狩り、ブルーベリー狩りの場として利用している。しかし、同様に利用者の高齢化により支援度があがり、参加できる作業が限られてきている。そのため活動内容の見直しと、工賃支払いのため収入向上が課題となっている。

3)畜産

かごしま黒豚の生産から加工販売まで一貫した畜産活動に取り組み、品質の高い肉の生産のため工夫した餌を与えるなど、肥育の充実を目指してきた。しかし、飼料代をはじめ、諸経費の高騰が続き、マイナス収支幅が大きくなっている。法人全体の収支への影響を考え、今年度途中での畜産部門の廃止を決定した。

4)工芸(木工)

屋久杉の材料確保が難しく少人数での活動が続けてきたが令和4年度を以って予定通り終了とした。門松の製作については、継続していく予定。工作機械の維持が課題となっている。

5)紙工

めぐいづくり、スプラウトシール貼りの活動を続けている。菓子箱については、コロナ禍における不況の影響を受けており、利用者の状況を考慮し、今年度途中での終了を先方へ相談し検討を続けている。

6)すまいる(前そうさく班)

利用者の高齢化に伴い、健康の維持・管理が日常業務となり、バイタルチェック実施後活動を始めている。空きかん・ペットボトルの分別、圧縮作業などのリサイクル活動、絵画をはじめ作品の制作など創作活動を企画して活動している。今後これまでの活動の他に、利用者の皆さんが楽しんで、能力を発揮できる魅力的な活動を企画・実行していく。

7)ふれあい(前生活介護班)

すまいる同様利用者の高齢化に伴い、健康の維持・管理が日常業務となり、バイタルチェック実施後活動を始めている。健康体操、歩行散歩、リクリエーションなどを中心に健康維持を第一に考えた支援を継続する。コロナ禍により、近隣公園での歩行などほとんど外出ができておらず、利用者から外出したいという声が多数寄せられている。すまいる同様、魅力的な活動を企画・実行していく。

8)ぼおくしよつが游花里

利用者がそれぞれの持ち場で能力を発揮して活動している。活動中の和やかな雰囲気も良く、B型へ事業変更しても全ての利用者が事業変更して継続利用してくださっている。しかし、畜産終了後の影響を考慮し、活動の方向性を早急に決める必要がある。法人全体の収支を考えると、利用者の新規獲得が困難であることを踏まえ、スタッフの削減は免れないと考えている。

2. 職場実習及び施設外実習

中央仮設、ニッセイ鹿児島、久保水耕園へ職場実習として受け入れをしていただいている。金銭管理や余暇の過ごし方への支援が課題。

また、職場実習を望んでいる利用者に対して受け入れ先を検討する必要がある。

3. 令和3年度 活動報告

① お悔やみ情報

日付	お名前
8/9	山下芳幸さん葬儀(8/8 逝去)
11/15	稲本茂生さん葬儀(11/13 逝去)

②各種研修会

期間	各種研修会	参加人数
9/15	相談支援従事者初任者研修	2名

③研修生等の受け入れ状況

期間	男	女	学校	研修名	備考
5/30~6/10	3		鹿児島国際大学	保育実習	宿泊
8/8~9/7	1		鹿児島国際大学	ソーシャルワーク実習	宿泊
8/16~9/30	1		宮崎福祉医療カレッジ	社会福祉士相談援助実習	宿泊
7/7	3	5	医療福祉専門学校	障害者支援施設実習	通勤
計	8	5			

④実習生の受け入れ状況

期間	男	女	学校	実習名	備考
5/30~6/10	2		鹿児島養護学校	産業現場等における実習	通勤
9/26~10/7	1	1	武岡台養護学校	産業現場等における実習	通勤

【令和4年度の反省と課題】

- 利用者の減少、経費の高騰によるマイナス収支を考慮し、早期のスタッフ配置見直しが必要。しかし、施設内新型コロナウイルス感染時の対応に不安。
- 新規利用者の獲得が困難で、今後は将来施設入所をお考えの通所利用者の方への短期入所利用のお願いや待機登録の方への定期的な確認を実施していく。
- 利用者の実態にあった事業変更を実施、それに合わせた活動の在り方を模索する。
- 研修生・実習生受け入れ時のスタッフの対応に課題あり。また、寮内での利用者支援において虐待が行われている可能性があり、引き続き聞き取りを実施し、法人内研修を継続実施する。
- 見学対応は積極的に実施する

【監査について】

※10月31日(月) 指導監査 (文書0件 口頭1件)

令和4年度 グループホームゆうかり 事業報告(案)

1. 事業報告

1) たんぽぽ(4/5)

6月よりさざんかから1名移行予定。引き続き夜勤者を配置し、夜間支援が必要な方を受け入れている。

2) もくれん(5/5)

夜間支援が必要ではあるが、たんぽぽ利用者より比較的軽度な方を受け入れている。

3) さざんか(6/6)

夜間の見守りが必要な方を受け入れている。

また、職場実習の方が出勤途中で自転車事故にあった。以前から自転車の運転について危険視する声があり、講習を実施するなど支援を検討している。

4) わかたけ荘(4/4)

飲酒、携帯料金等について支援が課題の方、また特に寄り添いが必要な方がいる。健康面に留意しつつ支援を継続。

5) きんもくせい(6/6)

癲癇の方がいるため今後の夜間支援体制について、また、利用者間のトラブルなどが頻発しているため今後の支援について要検討。

6) あじさい(5/5)

期中、さくら荘より移動してくる。

7) びおら(4/4)

利用者間、また世話人との関係性などトラブルが多く、担当職員を交えて支援継続中。また、一人暮らし希望の方について支援実施中。

8) まるおか(5/5)

今まで、全てのグループホーム個室となっていたが、ご本人からの希望により初めて兄弟お二人での利用を開始する。お互い関係性も良好。

9) すずらん荘(7/7)

近隣の方からの連絡により、利用者のおひとりが畑にゴミを捨てていたことが発覚する。世話人と連携し、声掛けや見守りにて防止に取り組んでいる。

10) コスモス(5/5)

健康面、精神面でのフォローが必要であり、都度対応している。

11) 第二わかたけ(5/6)

ゆうかり学園への通所が困難な方に対して見守り継続中。最近、自主的に通所する様子も見られるようになっている。

12) わかば(3/4)

玄関の不具合など、整備が必要。

13) ひまわり(3/4)

男性利用者との距離の取り方を含め支援継続中。

14) さくら荘(0/5)

利用者数減少によりあじさいへ移動する。さくら荘は12月末をもって廃止とする。

【令和4年度の反省と課題】

- 尿居者間のトラブル、異性関係、一人暮らしに向けて等、利用者のニーズに寄り添った支援の実施が必要。
- たんぽぽ、もくれん、さざんか以外の夜間支援の充実について要検討。
- 女性グループホームは夜間支援について要検討。
- 余暇支援の充実について、推進係を作って対応していく。
- 建物の老朽化による修繕が年々増加している。
- 2階建ての急階段への改善、もしくは階段の昇降自体が困難な方が増えている。
- 生ゴミ処理の事業所対応

※令和5年5月現在、岡之原エリアGH数13か所(男8:女5)

総定員数66 空床4

【3年間実績推移】

定 員 75⇒71⇒66(名)

平均実利用者数 61⇒60⇒61(名)

【岡之原エリア 3年間スタッフ推移】

正 規 28⇒24⇒27(名)

非正規常勤 8⇒6⇒10(名)

非正規非常勤 34⇒33⇒37(名)

派 遣 3 ⇒10⇒ 6(名)

【監査について】

※12月1日(木) 実地監査 (文書2件 口頭1件)

令和4年度 地域生活支援拠点ゆうかり 事業報告（案）

【1】運営の基本方針 各事業共通

《事業名》

『生活介護』

『共同生活援助・短期入所』

『一般相談支援、特定相談支援、児童（障害児）相談支援』

『居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援等』※令和3年7月以降休止中

『鹿児島市障害者地域生活支援拠点事業（安心コールセンター機能）』

地域で暮らす一歩を安心して踏み出すための拠点として、障害のある方々が住み慣れた街で心から安心して暮らすことできる地域づくりを推進します。それが当たり前になる未来を目指して、様々な支援を切れ目なく、不安なく提供できる仕組みづくりを進め、障害のある人もない人も共に歩んで行く場所を目指します。

【2】令和4年度の概要

◎拠点事業全体 ※（）内は前年度比

令和5年3月31日時点

事業	定員	期首	期末
共同生活援助 （くろーぱー）	6名	6名	6名
共同生活援助 （すみれ）	6名	6名	6名
共同生活援助 （くるみ）	6名	6名	6名
生活介護 （ばすてる）	20名	32名（-1） 契約者数	42名（+8） 契約者数
特定・児童相談 （あとリエ）	-	293名（+38） 契約者数	317名（+24） 契約者数

【3】各事業報告

○生活介護 ばすてる 定員20名

1) 事業報告 担当職員：鳥丸

年度当初は契約者数32名でスタートした。令和5年3月31日現在で、42名の契約者を得ることが出来た。10月と11月にコロナ対応のため一時閉所含むや体調不良等で利用頻度が減った利用者がみられた一方で、新規利用者が増えたため、稼働率



(+18%) 及び利用者延べ数 (+992 名) は増加となった。

コロナ禍で特別支援学校等からの実習生受入 (高等部 2 年の女性 2 名) は控えめだった。また、緊急一時対応から体験利用された方がその後の利用契約につながるケースもあった。

コロナウイルス感染拡大防止に配慮した活動の内容や場所を工夫しながら、充実した室内活動や屋外での四季を感じられる余暇活動等を実施することができた。利用人数が増えるにつれ、活動内容 (活動の中身やプログラムの組み方等) 及び送迎体制を含めた工夫と個別対応等の検討が必要となっている。利便性の高い立地や建物を活かした様々な活動や地域交流活動等を展開していきたい。

2) 利用状況

令和 4 (2022) 年度 生活介護事業 (ぱすてる) 事業報告 (利用者数・稼働率等)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数×20 (定員)	420	400	440	400	440	420
開所日数	21	20	22	20	22	21
利用者延べ数 (名)	387	391	439	409	442	420
平均実利用者数	18.4	19.6	20.0	20.5	20.1	20.0
稼働率	92.1%	97.8%	99.8%	102.3%	100.5%	100.0%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
開所日数×20 (定員)	340	340	400	380	400	460	4780
開所日数	17	17	20	19	20	23	239
利用者延べ数 (名)	354	336	422	362	400	464	4826
平均実利用者数	20.8	19.8	21.1	19.1	20.0	20.2	20.2
稼働率	104.1%	98.8%	105.5%	95.3%	100.0%	100.9%	101.0%

○共同生活援助 地域生活支援拠点ゆうかり (くろーぱー・すみれ・くるみ)

定員：6名×3ホーム＝18名

1) 事業報告 担当職員：田中

令和 4 年度の期首は定員 18 名に対して現員 18 名 (満床) でのスタートとなった。目標であった満床を維持することは達成することができた。その他、地域移行に挑戦したい入居者への相談や体験の機会の調整を行った。また、親亡き後に備える保護者への将来に向けた相談や併設する短期入所による宿泊体験の提案等を推進することができた。

今後、現員に変動があった際に、スムーズに対応出来るように準備していく必要がある。入居希望の利用者とつながりを維持しながら、空き情報の提供と移行支援をサポートしていく。グループホームから次の地域生活の場へステップアップを検討される方には、関係機関との連携を密に図り、目標達成に向けたサポートをする役割を担っていきたい。また、コロナ禍における制限のある生活の中に、新たな楽しみを見出しながら充実した地域生活になるようにアイデアを発信していきたい。



2) 利用状況

令和4（2022）年度 共同生活援助（地域生活支援拠点ゆうかり） 事業報告（利用者数・稼働率等）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数 (利用人数)	18	18	18	18	18	18
開所日数	30	31	30	31	31	30
定員(18) ×開所日数	540	558	540	558	558	540
利用日数	508	502	515	532	517	507
稼働率	94.1%	90.0%	95.4%	95.3%	92.7%	93.9%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
件数 (利用人数)	18	18	18	18	18	18	216
開所日数	31	30	31	31	28	31	365
定員(18) ×開所日数	558	540	558	558	504	558	6570
利用日数	513	468	508	514	444	520	6048
稼働率	91.9%	86.7%	91.0%	92.1%	88.1%	93.2%	92.1%

○短期入所 あすてっぴ 定員4名（内1床は緊急一時保護用に空床補償）

1) 事業報告 担当職員：田中

コロナ禍における短期入所受入はリスクを伴うこともあり、受入制限かけた時期もあったが、感染対策を実施しながら可能な限り受入を行った。そのため、令和3年度の実績と比較すると稼働率が微増する結果（+9.1%）となった。

グループホームの併設型であるため、コロナウイルス感染拡大防止の観点から感染状況に応じて流動的に配慮した調整を行った。利用ニーズの比較的低い平日に、定期的な利用を増やすために、将来の自立した生活に向けた体験的な利用の具体的な提案を呼びかけて、稼働率アップに努めた。

今後も、関係機関と情報共有しながら、コロナ禍に配慮しつつ緊急枠を除く実質定員3名分の稼働率アップを目指していく。今後も準備と創意工夫を重ねていきたい。

2) 利用状況

令和4（2022）年度 短期入所（あすてっぴ） 事業報告（利用者数・稼働率等）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数 ×定員	120	124	120	124	124	120	
開所日数	30	31	30	31	31	30	
利用日数	48	45	80	74	63	61	
平均 利用人数	1.60	1.45	2.67	2.39	2.03	2.03	
稼働率	40.0%	36.3%	66.7%	59.7%	50.8%	50.8%	
							年間 合計or平均
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
開所日数 ×定員	124	120	124	124	112	124	1460
開所日数	31	30	31	31	28	31	365
利用日数	50	30	34	32	30	42	589
平均 利用人数	1.61	1.00	1.10	1.03	1.07	1.35	1.61
稼働率	40.3%	25.0%	27.4%	25.8%	26.8%	33.9%	40.3%

○一般相談支援、特定相談支援、児童相談支援 あとりえ

1) 事業報告 担当職員：塩満、福留、満園、八瀬尾

鹿児島市在住の障害児（者）および保護者等からの相談支援、電話相談、訪問相談、関係機関との連携などを行ってきた。

令和4年度は、専従3名の相談支援体制に加えて相談員を1名追加して、計画作成や電話相談、訪問相談、同行相談、来所による相談等を実施してきた。内容としては計画作成依頼、福祉サービスの利用についての相談、本人の不安の解消、情緒安定に関する支援が多かった。特に近隣地域からの児童相談が多く、昨年度より契約者数も増加した。（+24名）

契約者の増加に伴い、計画作成業務（モニタリング含む）量が多くなり、訪問相談等に時間を調整することが困難になりつつあった。相談業務の補助を行う職員と連携を図りながら、相談支援が充実できるように取り組んできた。

地域生活支援拠点事業を通して、連携を図る関係機関の幅も広がってきた。次年度は相談体制をより面的に強化していきたい。地域生活支援拠点事業に紐づいた計画相談支援の機能強化（基本報酬アップ）や関連した加算等を積極的に活用していきたい。

今後も相談員が一人で抱え込んでの対応にならぬように、事業所間での連携と地域の関係機関との協働を図りたい。

2) 利用状況

指定特定相談支援・児童相談支援 実績集計（令和4年4月～令和5年3月）

		R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	件数	昨年度比	R3合計
全体	サ等計画	15	18	14	11	20	15	20	17	20	13	11	12	186	25	161
	サ計・モニ	33	47	48	41	44	37	37	40	35	42	50	39	493	-3	496
	児支計画	14	15	10	6	4	6	10	7	10	12	10	8	112	26	86
	児計・モニ	11	17	14	17	17	15	15	11	7	9	6	15	154	20	134
													全総件数	945	151	877

(注)「サ等計画」「サ計」…『サービス等利用計画』 「モニ」…『モニタリング』
「児支計画」「児計」…『児童支援利用計画』

令和4（2022）年度	利用者（前年度比）
特定相談	214（-4）名
児童相談	103（+28）名
合計	317（+24）名

※令和5年3月末時点の利用者数（初回の計画請求まで至った利用者総数）

○在宅支援サービス（居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援）

となりびと

1) 事業報告 担当職員：塩満

鹿児島市在住の障害児（者）の在宅生活の支援を目的に、居宅介護（身体介護・通院等介助）、重度訪問介護、行動援護、移動支援等の事業を実施してきた。

令和4年度の居宅介護等サービスは、令和3年6月末以降は職員配置困難のため、事業休止となっている。

事業再開に向けた求人の募集を継続して、事業再開を目指してきた。昨今の福祉人材難のため、再開の目途が立っていない。

人材確保と育成の再構築を進めながら、登録ヘルパーの雇入や活用等、事業再開に向けた今後の展開を模索している。まずは地盤となる拠点内の基本事業の稼働率向上を図りつつ、連動しながら新たな体制づくりを目指していく。

2) 利用状況

休止中のため実績なし

○鹿児島市障害者地域生活支援拠点事業（安心コールセンター）

1) 事業報告

24 時間 365 日、緊急時の対応や体験の場の提供等のコーディネート業務を行ってきた。6 年目を迎え、地域ネットワークも構築されつつある。

困難事例は、鹿児島市行政及び基幹センター、地域の関係機関等と協働しながら対応できた。コロナ禍での受入判断や児童相談所との連携等、緊急対応の判断が困難な事例もみられた。

地域生活支援拠点事業における緊急一時保護受入についても、鹿児島市行政（障害福祉課・保健所等）と協議した上で受入できた。同居家族との対人関係のトラブルから緊急一時保護になった方が新たな生活の場を検討するケースや、同居家族（キーパーソン）の急な不在（入院等）をきっかけに緊急一時保護となっていた利用者が、新たな生活の場となるグループホームの受入体制が整い、地域生活を再構築するお手伝いをするケース等があった。その際に、緊急一時保護受入と連動した短期入所受入も実施した。受入前後から関係機関との連携を図り、1 法人や 1 事業所だけで抱え込まないように、必要時に担当者会議を開催しながら、本人及び家族を側面からサポートすることができた。体験の場の提供を充実させていくことが課題となっている。次年度以降、具体的な取り組みをしていく予定となっている。

令和 4 年度は、拠点事業の追い風になる報酬改定による変更を上手く活用しながら、地域連携（面的整備）の強化を推進できた。協力協定法人も順調に増えており、令和 5 年度開始時には 17 法人となっている。これまでに構築してきたネットワークを活用して法人内外の協力体制を整えていく。

2) 利用状況

障害者地域生活支援拠点 実績報告書（令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月分）

1. 相談件数・緊急一時受入件数

		(単位：件)	
相談件数（うち時間外）		369件	(127件)
うち 緊急相談（うち時間外）		76件	(38件)
うち 緊急一時受入（うち時間外）		6件	(6件)

2. 相談内容の内訳

				(単位：件)
①家族等養護（介助）者の疾病等による急な不在	②身体機能・行動上の制約から自宅等での生活が困難となった場合	③知的障害における行動障害や情緒不安定等により自傷・他害の恐れのある場合	④精神障害者における精神的不安等に伴う一時的な避難等	
8	0	1	6	
⑤福祉サービスの利用等	⑥障害や病状の理解	⑦健康・医療	⑧不安の解消・情緒安定	
78	1	7	16	
⑨保育・教育	⑩家族・人間関係	⑪家計・経済	⑫生活技術	
1	29	15	2	
⑬就労	⑭社会参加・余暇活動	⑮権利擁護・成年後見制度等	⑯その他	
1	1	20	183	



【4】職員研修等 令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月

- 6/6 知的障害児（者）関係施設新任職員研修会 1名 四元
- 7/20 強度行動障害支援者養成研修打合せ 1名 塩満（講師）
- 9/5-23, 28-30 九州ブロック主任相談支援専門員養成研修会 1名 福留
- 10/6 市自立支援協議会定例会 研修会 2名 塩満 八瀬尾
- 10/7 強度行動障害支援者養成研修 企画運営会議 1名 塩満（講師）
- 11/8 強度行動障害支援者養成研修打合せ オンライン 1名 塩満
- 12/8-9 強度行動障害支援者養成研修 基礎研修 1名 塩満（講師）
- 12/15-16 強度行動障害支援者養成研修 基礎研修 1名 塩満（講師）
- 1/25 障害福祉人材育成研修 ファシリテーター研修 1名 塩満
- 2/2-3 強度行動障害支援者養成研修 実践研修 1名 塩満（講師）
- 2/9-10 強度行動障害支援者養成研修 実践研修 1名 塩満（講師）
- 2/16 市自立支援協議会定例会 研修会 1名 塩満

【5】職員数（令和5年3月31日時点）

正規職員：男性8名+女性8名=16名

非正規職員：男性6名+女性14名=20名

出向職員：男性2名 ※基幹相談支援センターへ出向

派遣職員：男性1名+女性3名=4名

職員合計：42名（男性17名+女性25名）

令和4年度 ゆうかり保育園 事業報告（案）

(1) 【全体所感】

行事に関しては少しずつ制限の緩和を検討しつつ、日常生活は子ども達がのびのびと安心して日々を過ごせるよう努めた。コロナの影響はどの事業所にもあり、学園へ行く機会が少なくなった。また理由の一つとして、職員不足の影響も少なからずあるように感じる。

鹿児島市の南部地区は待機児童が多く、受入れ増員を図っているが、当園も保育士不足となっていた。令和4年度は4名の退職、令和5年度初めに産休に入る職員が3名。それに対して入職者は4名となるため、子どもの受入れにあたり、物的・人的環境を整え、受入れを可能にするとともに、職員の処遇改善や働き方改革を進めたい。これまでも働きやすい職場作りを全職員で行っているため今後も継続して取り組んでいきたい。

(2) 【園児数】

・在籍数 令和5年3月31日現在 ♡ 74名

0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		全体		総数
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
5	3	8	5	9	2	5	6	8	7	8	8	43	31	74

・障害児等 令和5年3月31日

障害児		軽度障害児		療育支援児	
男	女	男	女	男	女
2	0	0	0	12	3

(3) 【行事の実施状況】

月	日	行事内容	備考
4	1	入園式	新入園児及び保護者
5	14	親子遠足	全園児及び保護者
5	17	芋の苗植え	もも組
7	16	お泊り保育	さくら組
9	17	親子レクリエーション	全園児及び保護者
11	9	水族館お魚ツリー	3歳以上児
12	21	発表会 (DVD 撮影)	全園児

		(前週発表会参観)	保護者(希望者)
2	3	節分・豆まき	全園児
3	10	お別れ遠足	全園児
3	18	卒園式	さくら組保護者及び職員
3	20	ぬいぐるみ病院	鹿児島大学医学部学生・園児

・うめ→年少組 ・もも→年中組 ・さくら→年長組

- ◆毎月 誕生会、スポーツ教室(外部講師)、読み聞かせ(外部講師)、英語
避難訓練、身体測定、食育・クッキング
- ◆ぬいぐるみ病院(鹿児島大学医学部学生) 通年(不定期)
- ◆保護者参観ウイーク(1週間/月)
- ◆鹿児島市立図書館移動図書館(年間20回)3歳以上児
- ◆内科検診 5月11日(水)、10月19日(水)【年2回】ゆあさこどもクリニック
- ◆歯科検診 11月10日(木) 【年1回】たんぼぼこども歯科

(4) 【実習生、職場体験他受入状況】

実施日	学校名	人数
通年(毎週火曜日)	鹿児島県立南高校 商業科2名	
5月16日～25日	鹿児島看護専門学校	4名
6月27日～7月1日	〃	4名
7月4日～7月8日	〃	4名
10月3日～15日	鹿児島女子短期大学	1名
10月17日～27日	鹿児島キャリアデザイン専門学校	1名
2月24日	鹿児島国際大学	11名

(5) 【職員研修状況】

研修・会議名	開催日時	講師等	参加	C U 研修
南ブロック主任会	4月11日(月)		1名	
南ブロック園長会	4月12日(火)		1名	
全体研修会	5月28日(土)	猪熊弘子氏	2名	
子育て支援・保護者支援研修会	6月9日(木)	大竹直子氏		
マネジメント研修会	① 6月17日(金) ② 7月22日(金) ③ 8月19日(金) ④ 9月22日(木) ⑤ 10月21日(金)	① ⑤ 大豆生田啓友氏 ② ③ ④ 佐伯絵美氏		○

南ブロック研修会(全体)	6月25日(土)		2名	
乳児保育研修会	7月5日(火)・6日(水)	森木朋香氏	1名	○
南ブロック主任会	7月11日(月)		1名	
保健衛生・安全対策研修会	7月27日(水)・29日(金)	酒井真博氏 南 武嗣 猪熊弘子氏 寺町東子氏	2名	○
園長研修				
障害児保育研修会	8月9日(水)	本田和也氏		
南ブロック園長会	8月10日(木)		1名	
保護者支援・子育て支援研修会	8月24日(水)・25日(木)	大竹直子氏	2名	○
南ブロック研修会(給食)(以上児)	8月27日(土)		2名	
障害児保育研修会	9月14日(水)・15日(木)	本田和也氏	1名	○
マネジメント研修会	9月27日(火)・28日(水)	増田まゆみ氏	2名	○
実習研修担当者研修会	9月29日(水)	増田まゆみ氏	2名	
食育・アレルギー対応研修会	10月5日(水)・6日(木)	上田玲子氏	1名	○
幼児教育研修会	10月17日(月)・18日(火)	藤森平司氏	1名	○
南ブロック研修会(給食)(未満児)	10月22日(土)		1名	
乳児保育研修会	11月8日(火)・9日(水)	遠藤利彦氏	1名	○
南ブロック主任会	11月14日(月)		1名	
男性保育士研修会				
全体研修会	1月28日(土)		2名	
実践論文発表研修会	2月4日(土)			
新入職員研修会				
親子ふれあいの集い事業	(年間)			
地域ふれあい及び福祉団体等との交流	(年間)			

(6) 【職員数】

・職員構成

園長	1名
統括保育士	2名
保育士(正規)	7名
保育士(非正規)	14名
栄養士	1名
調理員	2名
事務員	2名
看護師	0名

保育士総数 23名 職員総数 30名

(7) 【監査結果】

令和4年10月3日実施 鹿児島市指導監査 書面監査
文書指摘 0件 口頭指摘 1件

【基本情報】

令和5年4月1日現在

✿定員70名

✿対象0歳～5歳

✿開園時間 通常保育 7時～18時 延長保育 18時～19時

✿障害児保育

